

報 廣 ま っ だ い

第四回松代町議会定例会開かる

昭和44年12月25日発行
 第135号
 東頸城郡松代町公民館
 館長 富 沢 清 次
 電 話 松 代 1 番
 印刷 松代印刷所

一般会計補正予算などを提上

十二月十九日・二十日の両日に
 わたり第四回町議会定例会が開か
 れました。

会期中に提上議決されました議
 題は次の通りです。

報告事項

- (1) 総務文教常任委員会調査報告
 調査目的は町内小中学校々舎管
 轄状況を調査したものです。
- (2) 建設常任委員会調査報告
 調査目的は四十五年度施行予定
 及び申請地区道路・橋梁関係の
 現地調査
- (3) 昭和四十四年度松代町一般会計
 補正予算専決報告
 補正額才入才出ともに一四九
 万円で選挙費(才入は全額県支
 出金)これは衆議院議員総選挙
 費。

- 議第一号 新潟県旧市町村職員恩
 給組合資産管理組合規約の一部
 を改正することについて
 (このことについては松代町に
 は関係ありません)
- 議第二号 新潟県町村人事事務組
 合を組織する地方公共団体の数
 の増加及び規約の変更について
 (これも前号と同じく町には関
 係ありません)
- 議第三号 新潟県上越農業経済圏
 施設組合の共同処理する事務の
 変更及び規約の変更について。
 (これは上越地区の食肉センタ

1の設置、青果物市場の設置事
 務を高田市に設けることです)

議第四号 松代町職員の勤務時間
 に関する条例の一部を改正する
 条例の制定について。
 (労働基準法に基づき、その一
 部を改正)

議第五号 松代町職員の公務災害
 補償に関する条例を廃止する条
 例の制定について。

議第六号 松代町営土地改良事業
 の経費の賦課徴収に関する条例
 の一部を改正する条例の制定に
 ついて。

議第七号 昭和四十四年度松代町一
 般会計補正予算(歳入歳出とも
 にそれぞれ九五四一〇〇〇円を
 追加する)

◎歳入

地方交付税 二八一〇円
 県支出金 八五九八
 諸収入 △七〇二
 などが主なものです。

◎歳出

総務費 一三五七円
 松代病院運営寄附金と一
 般管理費が主なもの
 衛生費 一四七一円
 予防費としてワクチン代
 など
 農林業費 七二四〇円
 稲作特別対策事業補助金
 ・桑園造成事業補助金な
 どが主なるもの

議第八号 昭和四十四年度国保特
 別会計補正予算

尚一般質問も行なわれ、それぞれ
 答弁があり、提上された全議題を
 議決しました。

☆おたんじよう

おめでとう

十二月中

- 保護者 部落・家号
- 厚 (中村公一) 松代(宇ぜん)
- 浩二 (山岸清司) 蒲生(ますや)
- 祐子 (鈴木洋二) 松代(双葉屋)
- 敦子 (柳 能弘) 松代(大門)
- 幸子 (山賀三郎) 小荒戸(円隠)
- 英樹 (鈴木幸紀代) 松代(大阪屋)
- 大基 (鈴木勝明) 松代(ふくしん
 どう)

★おくやみ(死亡)

- (死亡者) 戸主 部落・家号
- 井上シヨ 晃 寺田(松坂屋)
- 関谷モト 和雄 太平(平 助)
- 高橋龍明 本人 千年(上 西)
- 池田カル 重善 田野倉(つんね)
- 秋山金太郎 和平 清水(そくち)
- 笠原又五郎 益雄 小荒戸(又七)
- 田辺俊次 喜八郎 寺田(喜八)

今年の出稼者数は？

殆んどが関東地方へ

年々その数の多いことで有名な松代町の出稼者数が町の職業係より発表になりました。これによりまずと、総数約一〇〇名(役場窓口を通さない方もあります)ですが、その七〇%が東京・神奈川を中心とする関東方面である

ことがわかります。

職安窓口を通して安全な職種に就職される傾向が多くなり、それも個人としてではなく、団体としてという様な型に変わりつつあることは、出稼ぎの姿の移り変りを示しています。

今年は一〇七一名の方々それぞれ任地にむかわれましたが、その職種を見ても機械工など技術を

ともなうものが多くなり、土工も必ず職安を通してという様になってきています。

出稼先、職種はそれぞれ%を出しておきましたが、安全で保障が得られる職業ということになります。すもその選定に苦労されている様ですが、約半年間のこの人たちの健康と安全を心から祈らずにはおられません。

昭和44年度出稼者調べ (11.20現)

1. 出稼先調べ

県別	男 人	女 人	計		割合 %
			(43年度) 人	人	
京 奈	324	18	(426)	342	33
東 神	218	2	(89)	220	20
玉 馬	87	3	(13)	90	8
葉 木	11		(10)	11	1
城 岡	26		(35)	26	2
岡 知	12		(13)	12	1
阜 阪	1			1	
都 庫	19		(107)	19	2
島 媛	213		(131)	213	20
媛 井		1	(3)	1	
野 内	85	1	(74)	86	8
大 京	18			18	2
兵 広	9		(25)	9	1
愛 福	6		(4)	6	
長 泉	2		(11)	2	
計	1042	29		1071	100

2. 業種別調べ

業 種 別	男 人	女 人	計		割合 %
			人	%	
工 工	242		242	22	
造 色	73	2	75	8	
機 械	65		65	6	
製 造	571	9	580	54	
品 送	24	4	28	3	
本 績	19		19	2	
ビ ス	10	7	17	1	
一 業	6	3	9	1	
工 工	3		3		
業 業	5		5		
焼 工	17		17	2	
他 他	7		7	1	
計	1042	29	1071	100	

松代家畜市場の売上げ成績まとめ

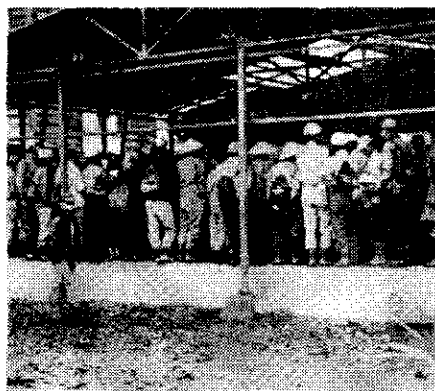
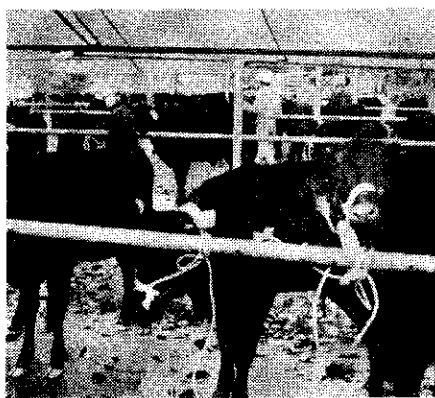
本年度の松代家畜市場の売買成績をまとめてみました。

昨年度と比較すると一頭平均約二万円安となります。これはその時の相場もありますが仔牛の質が劣って来たということもあるのです。良い資質をもちながらも発育のよい牛は昨年に負けない金額で取引されました。相場が安いから手をかけてもつまらないという考えをやめて、仔牛も一つの商品です。十分な飼料を与え、運動を

させ発育のよい生後六ヶ月で二〇kg前後の体重をもった立派な牛を作ることが大切です。

タスキをかけた頸城牛は本年度は七七頭しかありませんでした。これは全頭数の一五%で一〇〇頭に一五頭しかないということですから。来年度は皆様の努力で五〇%は頸城牛の出る市場にしたいものです。

町でも農業構造改善事業の一環としてこれを取上げ、頸城牛の本場にしたと言っていますので、その飼育が益々盛んになることを望んでやみません。



昭和四四年度松代家畜市場地区別成績表

(括弧内数字は二才牛)

地区別	松代地区	山平地区	奴奈川地区	松之山地区	浦田地区
売買頭数	131 頭	85 頭	45 頭	118 頭	125 頭
売上金額	8,620,300円	5,197,400円	2,750,600円	6,701,900円	8,014,700円
最高 価額	メ ス 87,700 (131,000)	100,000	97,000	79,100	120,000
	オ ス 78,500 (120,000)	86,700	70,500	78,200	68,100
	去(ヌキ) 88,000 (95,700)	82,400	85,500	83,200	100,100
平均 価額	メ ス 69,139	62,560	63,964	58,929	68,801
	オ ス 59,143	50,811	47,300	54,586	49,436
	去(ヌキ) 65,361	61,779	60,700	55,120	62,637

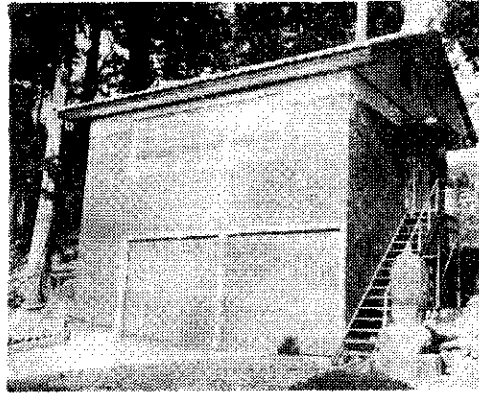
昭和44年度産米生産量調べ

字 名	農家戸数	農家人口	耕作反別 (個人申告)	44.11.30		総生産量
				売	渡 量	
a						
kg						
松代	54	248	2.584	64.680	112.112	
上中下	62	284	2.845	69.480	123.455	
戸平刈	46	250	2.238	53.880	100.594	
荒屋之	34	166	1.693	49.200	80.839	
小太菅田	26	121	1.260	39.780	62.920	
小池下	47	227	1.942	44.460	86.606	
千池会	29	166	1.672	61.500	83.076	
清桐蓬	21	86	1.364	58.140	75.992	
東海犬孟片	25	115	1.669	58.560	81.967	
滝中亭	35	179	2.388	80.820	116.624	
田仙筋	85	400	4.925	153.180	231.955	
小誠寺	25	135	2.067	82.140	109.941	
名蒲儀	45	214	1.899	53.940	93.877	
福奈室	58	301	3.119	76.680	134.197	
竹	43	197	2.250	88.140	126.410	
良	75	378	4.831	166.560	241.533	
濁峠	9	45	701	22.020	31.323	
原	41	190	2.376	79.980	117.508	
計	69	355	3.776	124.740	192.868	
	23	101	1.033	35.940	55.199	
	14	85	643	17.760	33.289	
	22	104	1.273	44.700	65.159	
	9	44	463	13.620	22.049	
	32	148	1.504	53.700	81.892	
	55	245	3.010	100.860	149.090	
	34	156	2.070	62.220	93.390	
	46	199	1.868	45.000	82.444	
	45	205	2.277	68.280	107.911	
	15	75	1.235	38.460	54.165	
	25	105	1.184	34.080	54.432	
	55	247	3.054	114.900	163.582	
	34	147	1.874	70.620	99.762	
	110	500	7.069	267.600	368.807	
	81	390	4.936	195.960	273.168	
	46	211	2.351	81.000	121.813	
	20	94	1.096	35.280	53.608	
	160	772	8.778	245.340	395.194	
	37	170	3.106	118.620	155.138	
	28	125	2.661	107.040	135.023	
	51	283	4.232	171.360	229.336	
	55	239	3.039	115.080	162.437	
計	1826	8702	104.355	3.465.300	5.160.685	
				(57.755俵)		

今年のお米の供米高は

最高の昨年より千俵の減

史上最高をうたわれた昨年度の米作は、その供米高だけを見ても五万九千俵を突破し大豊作をもたらしましたが、本年度は八・一〇水害の被害もあり、又販米などの変わり方などから、昨年度より一三



室内にこんな消防器具置場が

室野部落のまん中に、こんな立派な消防器具置場が出来ました。秋も終りの頃完成されたものです。が、今までの建物が小さく、消防器具が充実してくればくる程、手狭になり、新築しようという声が多くからあったもので、ようやくそれが実ったものだということでした。「備えあれば憂いなし」と言われていることを考えての事です。が、一旦事ある場合すぐ役立つことを第一に考えられたことに敬意を表します。

内職指導者の講習会が...

ドカ雪が四方をうすめつくした頃、町公民館の一室で熱心に仕事をされている六、七人の人達をよく見かけました。

これは降雪地帯の冬の仕事として、こんな内職はどうかというこ



とを考えると感深いものがありますが、あらためて災害の恐しさを知らされる今年の発表でした。尚農業協同組合では、それぞれ倉庫の増築をはかり、新米の保管にあたっては、山積みされた米俵に新たな配慮を懸命に行なうなどをいたしました。

奥さんも年金をどうぞ

外にあっては七人の敵を相手にチヨウチヨウハツンとばかりに稼ぎまくる亭主には、老後にそなえて厚生年金が一役買っていることは、すでにご承知のとおりであります。

さて家において内助の功高き奥さま方の老後はどうなっていることでしょうか。

「老後もやはり主人にまかせますわ。」とおっしゃるのはサラリーマンの奥さま方、たしかにサラリーマンの場合は厚生年金の被保険者であれ公務員共済組合等の組合員であれ、その人が老後に貰う年金で、夫婦がその余生をすこす資とすべしとの建前になっています。

これと対象的なのが、農家や、魚屋、八百屋といった商店の奥さん方は国民年金に加入し、ご主人も奥さんもご自分の年金をおもちいただくことになっております。

部落公民館めぐり

小屋丸部落公民館の巻

部落公民館活動の中で組織や活動内容ともに町内屈指の実績を示めているのがこの館である。

朝霧をついて六時半になると公民館の屋上のスピーカーから、ラジオ体操の声が山々にこだまして村内に響きわたる。一斉に老幼男女が家族ぐるみで体操を行なうことから、この村の朝が初まる。

ついで朝、昼、夕方のニュースも音楽と共に流され、働きながら野良でもこれ聞ける様に配慮されているのを見ても、心憎いばかりの運営ぶりである。広報活動は公民館の大切な事業である事を、きつと部落の方々も身をもって体験されていることである。

この館も隣の池之畑部落と一諸に公民館活動とは何んだらうと真剣に話し合い研究し合ったのは四年前の事であるが、両部落の問題点である「青年が住みよい村づくり」を目標にして活動の根本を

ですから六十五才になると、自身の年金がうけられるようになっていきます。サラリーマンの奥さん「自分の年金」をと、お思いになりませんか。

『あなたの老後は国民年金が』

お引きうけたいします』

手続きはかんたん、住所地の市町村役場の国民年金係へ印かん持参で申し出て現行では月三〇〇円(二十五才未満であれば二五〇円)の保険料を払えば、強制加入の人の場合とまったく同様の年金がもらえます。

地すべりが起ると

ベルが鳴る

地すべり地帯をたくさん持っている当町では、今秋、県の補助金を受けて、濁と饒明の両部落に、地すべり警報器を設置しました。

これは地すべりがはじまると警

そこにしほり、婦人学級、老人クラブ、子ども会等も積極的にそれに参加する体制を作っていたのだそうである。

先ず活動の中心を「家庭の日」におき、農休日も第一・第三日曜に改め、家中で参加できる方法で「体力づくり」にのり出した。

第三日曜の午後、分校に集まり館長の指揮で全員ラジオ体操を行ない、お父さんとお母さん方、青年と婦人などの交換バレーボール、老人と子どものゲートボール、おばあちゃん方のゲーム大会などを取上げ、その世話を青年学級と婦人学級が受持つことにし、一般者の誰もが何等かのスポーツを楽しむ様に運営していった。そのことから部落共同の楽しみ会を考え、村中での春の竹の子祭り、秋の茸狩りにまで発展していった。現在では更に出稼者を送る会、迎える会も行ない、村中で集って餅つき、その門出を激励するところまで至っている。

又公民館の使用は他方にわたり青年、婦人、老人などの学習活動は申すにおよばず、子ども会活動

報器のベルが自動的に鳴りだし、危険をただちに伝える役目を果たすものです。

県下でもこの警報器を取付けて効果をあげているところも多く、町としても今回は試験的に両部落に取り付けましたが、その成果が確認されれば更に他の地域にも増設されることになりましょう。



(濁部落にて)

まで館長の許しを得て学習会や会議などに利用している。その利用状況は八割が学習であるという実績をあげている。

公民館は単に行政の下受けでないことを自ら悟り、自分達の実際必要である事、自分たち自身の問題点を考え、話し合うことを取上げ、懸命の「村づくり」を行いつつあるこの館の将来に大きな期待をかけるのは私のみではあるまい。よく「村づくり」を唱えられるが実際の活動になると何をどの様に行なったらよいのか、迷い勝ちであるが、その点自らの方向を定め、村中が一丸となつてその解決策にあたる活動を示めしているこの館は、誰やらの言葉ではないが「自ら助くる者を助く」を身をもって体験しているのである。

ともあれ小さい部落だから出来ないということもなく、小さい部落だからこその出来るのだという姿勢が必要であることを示してくれ、この館に深い敬意をさしげつゝ、別れを告げた。